座標: 北緯34度56分38.8秒 東経135度41分49.6秒

ウィキペディア

向日神社

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

向日神社（むこうじんじゃ）は、京都府向日市に鎮座する神社。**向日明神**とも。式内社（名神大社・小社）で、旧社格は府社。

目次

由緒

境内

主な祭礼

境内社

文化財

- 重要文化財
- 国の登録有形文化財
- その他

交通

脚注

関連項目

外部リンク

向日神社

舞殿（右）・拝殿（左奥）

所在地	京都府向日市向日町北山65
位置	北緯34度56分38.8秒 東経135度41分49.6秒
主祭神	向日神 火雷神 玉依姫命 神武天皇
社格等	式内社（名神大・小） 旧府社
本殿の様式	三間社流造（国の重要文化財）
例祭	5月第二日曜日
地図	

由緒

元々は、同じ向日山に鎮座する「向神社」（上ノ社）「火雷神社」（下ノ社）という別の神社だった。いずれも延喜式神名帳に現れる古社で、「火雷神社」については名神大社「乙訓坐火雷神社（乙訓神社）」の論社である（他の論社は長岡京市の角宮神社）。

向神社は御歳神（向日神）が向日山にとどまり、稲作を奨励したことに始まるという。また火雷神社は神武天皇が大和国橿原から山城国へ遷った際、当地に火雷神を祀ったことに始まると伝える。

火雷神社は養老2年（718年）の社殿新築にあたり玉依姫命と神武天皇を合祀したが、中世に至ると衰微、建治元年（1275年）には向神社が併祭することとなり、向日神社と社名を改めて今日に至っている。

鳥居

境内

- 京都府道67号西京高槻線（アストロ通り）から、長い石畳の参道に入る。参道は桜・ツツジ・カエデ等の並木が連なる緩やかな登り坂で情緒があるが、時折自動車も走るので注意が必要。
- 境内に入ると、舞楽殿が控える。拝殿・本殿はその奥にある。拝殿、舞楽殿は寛永2年（1625年）の建立であるが舞楽殿は平成14年（2002年）に火災により焼失、平成15年（2003年）に再建された。
- 本殿は応永25年（1418年）建立。室町時代の流造を代表するものとして、国の重要文化財に指定されている。また明治神宮本殿は、当社本殿を1.5倍のスケールにした設計である。

長い石畳の参道脇に桜が咲く

主な祭礼

- 年頭祭
- 索餅祭

境内社

括弧内は祭神・神体。

- 勝山稲荷社（宇迦之御魂神）
- 天満宮社（菅原道真公ほか）

- 増井神社（火雷神の荒魂神を祀る井戸が御神体）
- 五社
- 春日社
- 御霊社

境内社　勝山稲荷社

文化財

重要文化財

- 本殿
- 日本書紀 神代巻下巻

  延喜4年（904年）の奥書があるが、南北朝時代の写本である[1]。

国の登録有形文化財

- 幣拝殿及び本殿覆屋[2]
- 南門・北門及び瑞垣
- 末社祖霊社本殿
- 末社祖霊社渡廊
- 末社五社神社本殿
- 末社春日神社本殿
- 末社御霊神社本殿
- 末社天満宮社本殿
- 末社天満宮社瑞垣
- 末社勝山稲荷神社本殿
- 末社勝山稲荷神社拝殿
- 客殿
- 手水舎

その他

- 飾太刀

交通

最寄駅

阪急京都本線西向日駅から北西へ500m

- 京都府道67号西京高槻線

脚注

1. ^ 紙本墨書日本書紀神代紀下巻（向日市サイト）(https://www.city.muko.kyoto.jp/rekimachi/rekishi_bunkazai/bunkazai/bunkazai/kuni/kunisiteitou/1441755502103.html)
2. ^ 平成27年8月4日文部科学省告示第125号（本件以下「手水舎」まで、同告示による登録）

関連項目

- 六人部是香　幕末の国学者。当社の神官。

外部リンク

- 向日神社 (http://www.geocities.jp/mukojinjahp/index.htm)公式ホームページ
- ウィキメディア・コモンズには、**向日神社 (https://commons.wikimedia.org/wiki/Category:Muk%C5%8D-jinja?uselang=ja)**に関するカテゴリがあります。

「https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=向日神社&oldid=75743264」から取得

最終更新 2020年1月12日 (日) 12:59 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。